



太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより
令和6年7月号(第4号)
令和6年6月28日発行

【学校教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心もち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

喜んで登校 満足して下校

【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

体験がはぐくむ力

校長 藤田 昌一

皆様にご心配をいただいております膝の怪我ですが、おかげさまで順調に回復をしております。今後も可動域の増加や筋力の回復等のためリハビリは続きますので、もうしばらくの間ご迷惑をおかけします。

*

怪我のためできなかった校長の仕事の中で、一番残念だったのが、校外学習の児童引率です。学校では見られない、子どもたちの表情、気遣い、たくましさ、やさしさ等に触れるのが大好きです。また、その現場でしか学ぶことのできない様々な体験や学びを通して、子どもたちが大きく成長する姿を、目の前で見るのが楽しみです。ですから、前任の学校では、よほどのことがない限り、校長自ら引率をしていました。しかし、5月からの校外学習は、全て教頭に引率責任者をお願いすることになりました。バスや電車を利用したものだけでも、6年生…国会議事堂見学、5年生…館岩少年自然の教室、音楽鑑賞教室、4年生…清掃工場見学、プラネタリウム学習が挙げられます。

遠出するものに限らず、学校では体験的な学びをととても重視しています。1年生は、2年生と一緒に校内巡りをしたり、1年生だけで学校を巡り職員にインタビューをしたりしました。2年生は、学区探検に出かけ、商店街の様子など、まちの特徴を学びました。そして、3年生は、スーパーマーケットの見学を通して、実際の仕事やお店の工夫を学びました。さらに、7月はお隣の近代美術館での学習を予定しています。

*

さて、子どもの体験活動に関し、興味深い報告があります。国立青少年教育振興機構の「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書(平成22年)によると、

子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいをもっている人が多い。

ということです。具体的には、子どもの頃の「自然体験」や「友だちとの遊び」、「地域活動」等の体験が豊富な人ほど、「経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい」といった「意欲・関心」をはじめ、「規範意識」や「人間関係能力」が高いのだそうです。

また、教育の世界には、次のような言葉があります。

聞いたことは、忘れる。 見たことは、覚えている。 やったことは、理解する。

夏休みがもうそこに迫っています。ぜひ、普段の学校生活ではできない体験をたくさんさせてください。自分の手や肌、そして体全体で得たものは、子どもの本当の力となってくれることでしょう。